

【IoPプラットフォームの展開】

IoPプラットフォームにかかる検討状況

高知県 農業イノベーション推進課 / IoP推進機構
松島 弘敏

I 高知県が優位性を持つ施設園芸農業について、産学官の積極的な連携のもと、農業者に有益な情報を提供するデータ連携基盤（以下「IoPクラウド」という。）を構築し、IoPクラウドの効果的運用による最先端の研究開発や先進的な人材育成、他分野との協業による技術革新やビジネス創出（「IoPプロジェクト」という。）を促進することで、**本県施設園芸農業の飛躍的发展と施設園芸関連産業群の育成・集積**を実現するとともに、**高知大学、高知工科大学及び高知県立大学の魅力向上**を目指す。

- 各IoPプロジェクトKPIの達成
- 高知県の施設園芸農業、大学、（税収増等による）経済等の振興

II 「Next次世代型連携プラットフォーム」*の構築と運用

*生産性向上（面積当たりの収穫量UP・作業効率UP）、高付加価値化・流通販売強化（販路拡大・Super4定）

などの方針に基づき、農業生産、流通、販売に関わる様々な事業者や機関等が連携し、生産者から消費者に至るまで農業に関係するあらゆる人々を豊かにしていくための一気通貫のプラットフォーム（IoPクラウドがその中心となる）。また将来的にはこれを高知県の資産に昇華させ、他の一次産業への応用や県外・海外展開も目指す。

- 目的 I を達成するための手段でもある
- 資産化：農業全般、漁業、林業等への応用→高知県をSociety5.0型一次産業のメッカに
：他県、海外への展開→更なる高知県経済への貢献

・2020年3月にIoP推進機構を設置以降、その実務組織の一つであるビジネスチームにて、2021年1月までほぼ月一回のペースでIoPプラットフォームに関して協議を進めようとしたが、クラウド構築についてが中心となり、プラットフォームに関する協議は進まなかった。

➡IoPプラットフォームの具体化に向けて農業振興部だけでなく、商工労働部、産業振興推進部の積極的な協力も必要との結論に至った

➡以降、受田事業責任者と武市理事長を中心に知事、副知事への提案や、商工労働部、産業振興推進部との協議を重ね、

➡2021年6月のIoP推進機構理事会から商工労働部の岡田副部长統括、産業振興推進部の三浦副部长統括が理事となった

➡更に2021年7月に、農業振興部、商工労働部、産業振興推進部の職員と外部スーパーバイザーによるIoPプラットフォームの具体的な検討を進めるためのチーム「IoPプラットフォームチーム（IoP推進機構ビジネスチームの改組）」が発足された

■IoPプラットフォームチームのメンバー（敬称略）：

商工労働部：荻田、川村

産業振興推進部：山川、山本

農業振興部：岡林、吉村、松島

外部スーパーバイザー：武市、八子、大場、天辰、村川

① 今までは、農業振興部の本来ミッションや**人的リソース**の都合上、IoPクラウドの構築を優先。→プラットフォームとしては何もできていない。



①' **人的リソースの確保**

② 内閣府も求めるIoPプラットフォームの自走に向けて、**どんな組織体制、またどんなスキームで運用**していくかがまだはっきりと決まっていない。



②' **プラットフォームの構築・運用・自走に向けた最適な組織検討**

③ 交付金申請時の計画上、研究への予算配分が多く、**IoPプラットフォームの予算を確保できていなかった**。



③' **IoPプラットフォームに必要な予算の確保**

④ IoPプラットフォームは民間企業の声聞きながら、また同時に巻き込みながら（最終的にプラットフォーム上でビジネスをしてくれる具体的な企業の目途を立てながら）、機能開発していかないとはいけませんが、**それがまだできていない**



④' **IoPプラットフォームチームの予算・人的リソースを確保した上で、民間との連携強化を図る**

IoPプラットフォームチーム(PF)発足からの主な動きの時系列まとめ①

- 7月1日 第一回IoPプラットフォームチーム会
主な内容：本チーム会発足にかかる思い、経緯、体制等について確認
- 7月2~15日 各スーパーバイザーにIoPプラットフォームチームへの参加を依頼、全員快諾
- 7月15日 第二回IoPプラットフォームチーム会
主な内容：GPECでの登壇結果の共有、IoPクラウドの特徴の確認、IoP PF上でのビジネスについてブレスト
- 7月26日 第三回IoPプラットフォームチーム会
主な内容：IoPプラットフォーム構築、運用までの流れとそこでのPFチームの役割について確認
IoP PF上でどんなビジネスが想定されるかに関して草案の確認、協議
- 8月5日 第四回IoPプラットフォームチーム会
主な内容：IoPプラットフォームのビジョンの確認、想定ビジネスの顧客やビジネスモデルについて確認
→IoP PFの価値検証や事業者が実際にどんなビジネスをやりたいと思うかの調査のため、企業インタビューを実施する事が決定
- 8月20日 第五回IoPプラットフォームチーム会
主な内容：企業インタビューリスト、アプローチ状況の共有
- 今後 IoP PFの進め方等については、庁内協議等により方針を検討していく。

高知県を日本で一番Society5.0が実現している場所にする

～データを共有・活用して高知県をより豊かに～

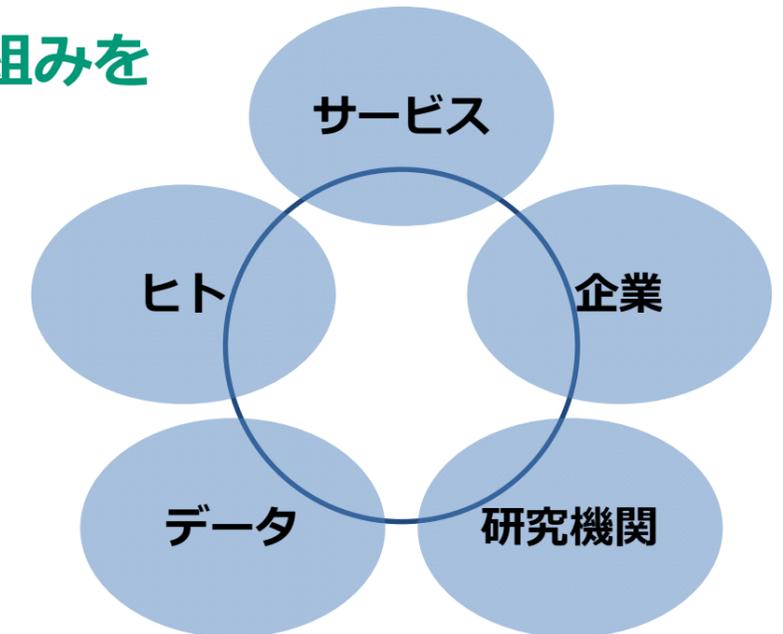
高知県の施設園芸から第一次産業、またその他産業にまでデータ活用を展開

県内の様々な産業領域におけるデータの蓄積と共有ならびに企業・研究機関等による活用とそこからの価値創造を促す。

データの出し手が得をする仕組みを

生産者や県民などのデータの出し手が決して損をすることなく、むしろデータを提供すればするほど、データが集まれば集まるほど、データの出し手にメリットがある仕組み、制度、ルール作りを行う。

関係者が**お互いのニーズに応じてデータを活用した連携、協業、取引**ができる仕組みを



このビジョンを実現する手段がIoPプラットフォーム

～農業分野の行政サービス（IoPクラウド）から、他産業も含めデータが共有・活用され関係者間でビジネスが生まれ・成功する自律的な基盤へ～

主に以下三つの観点でIoPプラットフォームに参画してくれる可能性のある企業にインタビューをしていっております。

- ・ IoPプラットフォームの価値の検証（活用したいと思うか？）
- ・ IoPプラットフォームを活用して実現したいビジネスの調査
- ・ IoPプラットフォームが持つべき機能の調査